

平成24年 7月20日

さくら

広島市立落合小学校校長室発

No. 4

平和集会～歩んでいこう平和な未来へ～

7月10日（火）に、児童会主催の平和集会を行ないました。各学年が平和旬間で学習した事柄を、言葉や歌で伝え合いました。戦争の悲惨さ・命の大切さ・平和の大切さなど、どの学年もしっかり学んだことが伝わってきた集会となり感動しました。そして、各クラスで心をこめて折った折鶴を献納し黙とうを行い、「青い空は」の歌を心をこめて全校合唱して、平和集会を締めくくることができました。

各学年の発表内容をお伝えします。

1年生は、被爆アオギリのことを学びました。本校の校庭にあるアオギリは、被爆アオギリの子どもで、命を受け継いで今青々とした葉を茂らせていることを知りました。

2年生は、「伸ちゃんの三輪車」の学習で、伸ちゃんの気持ちになって考え、命の大切さや戦争は間違っているのだということをしっかり感じとることができました。

3年生は、「ちいちゃんのかげおくり」の学習を通して、戦争の悲惨さや家族の絆について学びました。また、先日平和公園へ行き学習してきた事と重ね合わせ、これからもみんなで仲良くしていきたいという気持ちを持つことができました。

4年生は、「真っ黒なおべんとう」の学習を通して平和について考え、命の大切さに気づき、家族や友達を大切にしていこうと呼びかけることができました。

5年生は、野外活動で行った「似島」で被爆の実態を知り、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さから、平和の大切さを力強く伝えてくれました。

6年生は、東日本大震災と原爆を考える学習をしました。今感じている当たり前の日常、豊かな自然と家族がいて仲間がいる日常。それが一瞬にして失われた時の悲しみは計り知れないことをあらためて感じ、自分たちは笑顔あふれる未来を築いていかなければならないという決意を伝えることができました。また、「平和のでっかい絵」の制作を通して「元気」「勇気」「笑顔」をみんなに届けたいと、力強くメッセージを送って

くれました。

子どもの地域とのかかわりは「〇く」「〇く」なっています

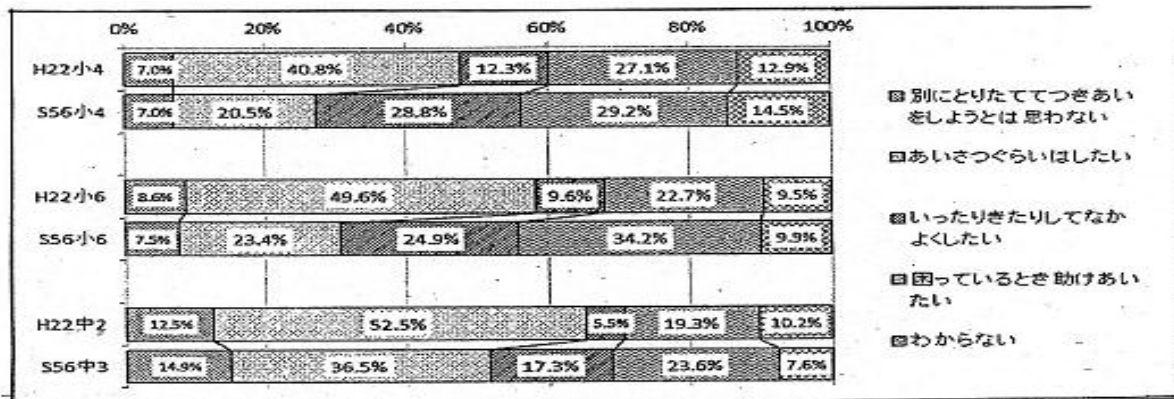
さて、皆さんは「〇く」「〇く」にどのような言葉が入るとおもわれますか。

政令指定都市教育研究所（本市では広島市教育センター）連盟の共同研究として、政令指定都市の子どもの実態把握を通して、教育の今日的課題を解明し、学校・家庭・地域社会における教育のあり方についての提言が報告されました。

今回は第16次の共同研究で、「子どものやる気」「子どもの耐性」「子どもの

人間関係」の三つの視点から、昭和55年（30年前）の子どもたちと、今を生きる子どもたちの姿や思いの変容を明らかにしたものが提言されました。大変興味深い内容でしたから、その一部のグラフを皆様で紹介いたします。

「地域とのつきあい」 第6次共同研究（昭和56年）の調査と比較



子どもの地域とのかかわりは「広く」「浅く」なっています

子どもたちの意識では、地域とのかかわりは「あいさつぐらいはしたい」と回答した割合は大幅に増加していますが、「行ったりきたりして仲良くしたい」と回答した割合は大幅に減少しています。地域との交流を深め、積極的に関わっていく大人の姿から、子どもたちは協力・共同の社会を学んでいくと思います。